



獨國陸軍總司令部兵器局課長陸軍大佐
「パウル・ニーメラ」外一名叙勲ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十七年十一月二十日

内閣總理大臣東條英機



内

閣

七〇一

昭和拾八年 七月貳七日勅記傳達
昭和拾七年十二月廿日裁す

17.11.20

付受

325

昭和十七年十一月十九日内閣書記官長

一

内閣書記官長

印

印

内閣總理大臣

印

賞勳局總裁

印

獨國陸軍總司令部兵器局課長陸軍大佐「ハ
ウル、ニーメラ」外一名ハ孰モ「ヒットラー」總統ノ特命
ニ依リ獨軍ノ最新發明ニカカル祕密兵器ヲ皇
軍ニ傳授シ且之ガ製造ヲ指導スル爲四箇月ニ
亘ル航海危險ヲ冒シテ本年五月上旬來朝シ
爾來專心該兵器ノ製作指導ニ任ジ短日月ニ克
ク之ヲ完成セシメタリ而シテ試験ノ結果ニ依レバ

賞勳局

該兵器ハ極メテ優秀ナル效果ヲ舉ゲ皇軍ノ將
來戰ニ一威力ヲ加フルト共ニ之ガ防護措置研究
ニ一大示唆ヲ與ヘタルモノニシテ我國兵器界ニ效
セル其功績顯著ナリトス仍テ外務大臣上奏各
頭書ノ通叙勲被仰出可然哉此段允裁ヲ仰グ

（永田 昭）

裏面白紙

獨國陸軍總司令部兵器局課長陸軍大佐「パウル、ニーマラー」外
一名儀別記ノ通功績有之候趣ヲ以テ敍勳ノ儀陸軍大臣ヨリ申立有
之候ニ付テハ此際右功勞ヲ御表彰被遊頭書ノ通敍勳被仰出候様仕
度此段謹テ奏ス

昭和十七年十一月十八日

外務大臣 谷

正

之



外務省

東京 4943

326

獨國陸軍總司令部兵器局課長

勳三等旭日中綬章

陸軍大佐　パウル、ニーメラ

右者「ヒットラー」總統ノ特命ニヨリ最近獨軍ノ發明ニカカル兵器ノ祕密ヲ皇軍ニ傳授シ且之カ製造ヲ指導スル爲本邦ニ派遣セラ
ルルヤ特種連絡船ニヨリ本年一月故國ヲ發シ四ヶ月ニ亘ル敵勢力
圈下海上封鎖網突破ノ危險航海ノ後漸ク五月上旬本邦ニ到着セシ
カ大佐ハ旬日ノ休養モ之ヲ採ルコトナク直ニ任務ニ就キ寢食ヲ忘
レテ本邦關係將校以下ニ對スル該兵器ノ製作指導ニ專念シ僅々一
ヶ月ニシテ製作ヲ完成セシメタリ而シテ本兵器ハ試験ノ結果極メ
テ優秀ナル成果ヲ收メタリ該兵器ノ獲得ハ正ニ我兵器界ニ對スル
革命的事件ニシテ將來戰ニ於ケル其ノ威力ハ刮目ニ價スルト共ニ

裏面白紙

之カ防護措置研究ニ一大示唆ヲ與ヘタリ大佐ハ更ニ右ノ着想ヲ活用シ新兵器ノ創造ヲ指導中ナリ以上大佐ノ皇軍ニ效セル貢獻ハ甚大ニシテ其功績ハ甚ニ顯著ナリト認ム

外務省

獨國陸軍總司令部兵器局課員

勳四等旭日小綬章

陸軍少佐　ワルテル・メルケル

右者「ニーメラ」大佐ト同シク「ヒットラー」總統ノ特命ニヨ
リ最近獨軍ノ發明ニカカル兵器ノ祕密ヲ皇軍ニ傳授シ且之ヲ製造
ヲ指導スル爲本邦ニ派遣セラルルヤ萬一ノ場合ヲ慮リ「ニ」大佐
ト別個ニ行動シ特種連絡船ニヨリ本年一月故國ヲ發シ六ヶ月ニ亘
ル敵勢力圏下海上封鎖ノ危險航海ノ後漸ク六月下旬本邦ニ到着セ
シカ少佐ハ直ニ任務ニ就キ「ニ」大佐ト共ニ本邦關係將校以下ニ
對スル該兵器ノ製作指導ニ專念シ僅々一ヶ月ニシテ製作ヲ完成セ
シムルト共ニ試験ノ結果極メテ優秀ナル成果ヲ收メタリ該兵器ノ
獲得ハ正ニ我兵器界ニ對スル革命的事件ニシテ將來戰ニ於ケル其

裏面白紙

威力ハ刮目ニ價スルト共ニ之カ防護措置研究ニ一大示唆ヲ與ヘタ
リ以上少佐ノ皇軍ニ致セル貢獻ハ甚大ニシテ其功績ハ寔ニ顯著ナ
リト認ム

外務省

秘

儀 祕 第 八 〇 一 號

昭 和 十 七 年 十 一 月 十 八 日

主 任 者、儀 典 課、笠 原

外 務 大 臣 谷 正 之

内 閣 總 理 大 臣 東 條 英 機 殿

獨 國 陸 軍 大 佐 「 ニ ー メ ラ ー 」 外 一 名 裁 勳 ノ 件

獨 國 陸 軍 總 司 令 部 兵 器 局 課 長 陸 軍 大 佐 「 バ ウ ル 、 ニ ー メ ラ ー 」 外
一 名 裁 勳 ノ 儀 別 紙 ノ 通 上 奏 致 候 間 至 急 可 然 御 取 計 相 成 度 此 段 申 進
候 也

1. Paul Niemoller.
2. Walter Merkel.

外 務 省

(日本標準規格 B 5)



331

秘

儀祕第八〇一號

昭和十七年十一月十八日

外務大臣 谷

正

内閣總理大臣 東

條

英

機

殿

獨國陸軍大佐「ニーメラー」外一名救勳ノ件

獨國陸軍總司令部兵器局課長陸軍大佐「パウエル、ニーメラー」外

一名救勳ノ儀別紙ノ通上奏致候間至急可然御取計相成度此段申進

候也

1. Paul Niemöller.

2. Walter Merkel.

外務省

(日本標準規格B5)

裏面白紙



331